

## 地理学や地誌学の専門書を利用した授業

愛知県立津島高等学校 溝口晃之

### I はじめに

「高校生の地理A～くらし・世界・未来～」はいわゆる受験校といわれる高等学校での採択率はきわめて低い。そもそも受験校では、大学入試において制約を受ける地理Aは不向きとされ、地理Bが開講されていることが圧倒的に多い。しかし受験教育だけが地理教育であるはずはない。受験教育を離れるとき、教師も理想的な地理教育を展開できるはずである。

これまでの私の地理教育を振り返ると、最初の数年間は工業高校、その後は普通高校、それもいわゆる受験校の部類に属する高等学校での地理教育であった。普通高校では大学入試センターでの好成績を最終目標として地理教育を行ってきたことは否定できない。教科書の難解な箇所を理解できたときの生徒の笑顔、あるいは大学入試センター試験で好成績をとったときの笑顔を忘れることはできない。しかし一方で、教科書の内容を越えているが、大学の教養で学ぶような事項で、しかも受験に役立つようなことに言及したときの生徒たちの表情はいきいきとしている。一つの節の一つくらいはこのような事項を扱ってはどうか。

ここでは、このような観点に立ち、この教科書を使用している教師が、教科書を越えた内容にふれることによって、いきいきとした授業を展開できる可能性をさぐった。

### II 民族と国とのかかわりの視点

異なった民族が共存・共生していくことの意義と困難さを理解させるのに格好の単元である。カナダではイギリス系とフランス系が共存・共生している工夫、インドではヒンドゥー教とイスラム教の対立につけ込んだイギリスの植民地政策に主

眼をおいた授業にしたい。

(1) 英語とフランス語の2か国語で表示されている理由と文字の大きさが異なっている理由を考えさせる。その際に北アメリカにおける何人かのフランス系の植民活動の実態を把握させる。



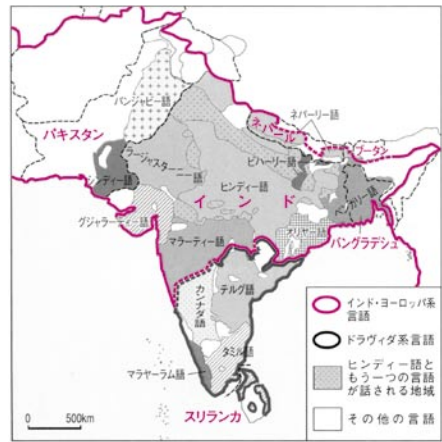
▲④二つのことばで示されたホテルの案内板  
(カナダ、ケベック州) ケベック州では、二つのことばで文字を表記する際、フランス語のほうを英語より大きく表示することが、州の条例で決められている。

#### 民族の共存の工夫 (教科書 p.95)

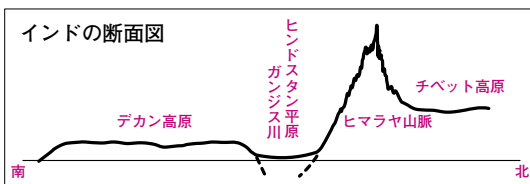
- ・カルティエがセントローレンス川を発見し、モントリオール植民地の基礎をつくった。
  - ・多数のフランス系がセントローレンス川の下流域に定着した。
  - ・サルはセントローレンス川をさかのぼり、五大湖方面からミシシッピ川を下って、ニューオーリンズへ達し、ルイジアナ植民地を建設した。
  - ・シャンプランがモントリオールにネイティブアメリカンとの毛皮の交易所をつくった。
- (2) ケベック州ではフランス系が圧倒的に多いにもかかわらず、独立が否決されている事実をケベック州の経済と関連させて扱いたい。言語という文化だけではなく、経済的な自立の成否もからんで、複雑な投票結果になったという視点が重要である。フランス系に独立してほしくない連邦政府がさまざまな政策によって、フランス系の不満が生じないようにしているが、大きさの異なる文



インドとその周辺諸国 (教科書 p.96)



インドとその周辺諸国における言語分布 (教科書 p.97)



字の表記はその一例である。

(3)  $\langle 30^\circ\text{N}, 90^\circ\text{E} \rangle$  と  $\langle 10^\circ\text{N}, 75^\circ\text{E} \rangle$  の 2 点間の断面図を書かせることによって、インド世界が一つのまとまりのある世界であることを把握させる。

- ・断面図が、北方のヒマラヤ山脈、中部から南部にかけてのインド半島（デカン高原）、その間のヒンドスタン平原の3つに区分されることを把握させる。
- ・インド半島はかつての Gondwana 大陸の一部で安定陸地である。そのほとんどは溶岩台地であるデカン高原からなる。ユーラシアプレートと衝突してヒマラヤ山脈を誕生させた。
- ・ヒマラヤ山脈は新期造山帯で高く険しい。
- ・ヒンドスタン平原をガンジス川が流れている。

(4) カーストの名称の由来にふれ、言語分布を考えさせる題材にするとともに、地図帳を利用して、予め用意した白地図に行政区分を書かせることによって、言語分布との照合をさせる。

- ・カーストは古くはバルナ（色の意）といい、北方からやってきたアーリア人が征服者と被征服者を区別するためにこのように呼んでいた。その後インドにやってきたヴァスコ＝ダ＝ガマがカスタ Casta（血統の意）と呼び、これが英語

に入ってからカースト Caste になった。カーストはもともと差別や区別を意味している言葉であった。それは、主要部に征服者のインド・ヨーロッパ語族、南東部に被征服者のドラヴィダ語族という分布にも反映されている。

- ・長い歴史の中で言語は複雑に細分化され、英語と最有力のヒンディー語だけでは、どちらも使用できない国民が多くなるため、言語の分布をもとに州が区分されている。紙幣には有力な17言語で文字を印刷することによって、できるかぎり多くの国民がどれか一つの言語を使用できるようにして、国家としての統一をはかっていることを確認させたい。
- ・イギリスの植民地時代のインドには、ヒンドゥー教のインド国民会議とイスラム教の全インドムスリム連盟があり、互いに対立していた。今日でもその対立はカシミール地方での紛争などにあらわれている。

### Ⅲ おわりに

この教科書に記載されていることを教えることに終始すれば授業は平板的なものになる。教育学の分野でよくいわれるように、教科書を教えるのではなく、教科書で教えるという姿勢をみせることは意義があることで、教師が幅広い知識に裏付けされた目新しい事項を提示することによって可能になると思われる。今後もこのような地理の教材の開発を行いたい。